

地区内交通環境の取組状況

エリア交通ビジョン『(仮称)美園スマートモビリティデザイン』の検討



背景

「美園地区」の概況

- 市の“副都心”の1つとして、約320haの土地地区画整理事業を核とする新市街地づくりが進行中。

- まちづくり課題：

生活利便性の向上
(夜間人口を増やす)

市の副都心に相応しい都市環境づくり
(滞在人口を増やす)

経済活動の活性化
(昼間人口を増やす)

対流・滞留の促進
(交流人口を増やす)



(src:さいたま市都市計画マスタープラン)

- 趨勢からは、美園地区の居住人口・来街者数はまだまだ増加が予想される。

➢それに伴い交通需要も増の見込み

- 今は若い世代が多く転入してきているが、将来は…。

※全国的には、生産年齢人口の減少は顕在化し始めている。

- 一方で、社会情勢の変動も加速。

- 環境意識・健康志向の高まり。
- IoT・AI・ビッグデータ等のICT技術革新。
- 官民におけるSDGsの普及。

サッカー開催時の交通環境改善(シャトルバス優先化※)は実験段階から実運用段階に移りつつあるが...

美園地区内での【日常移動】はどう考えていく??

※サッカー開催時のアクセス改善の取組は下記ページも後ほど参照ください

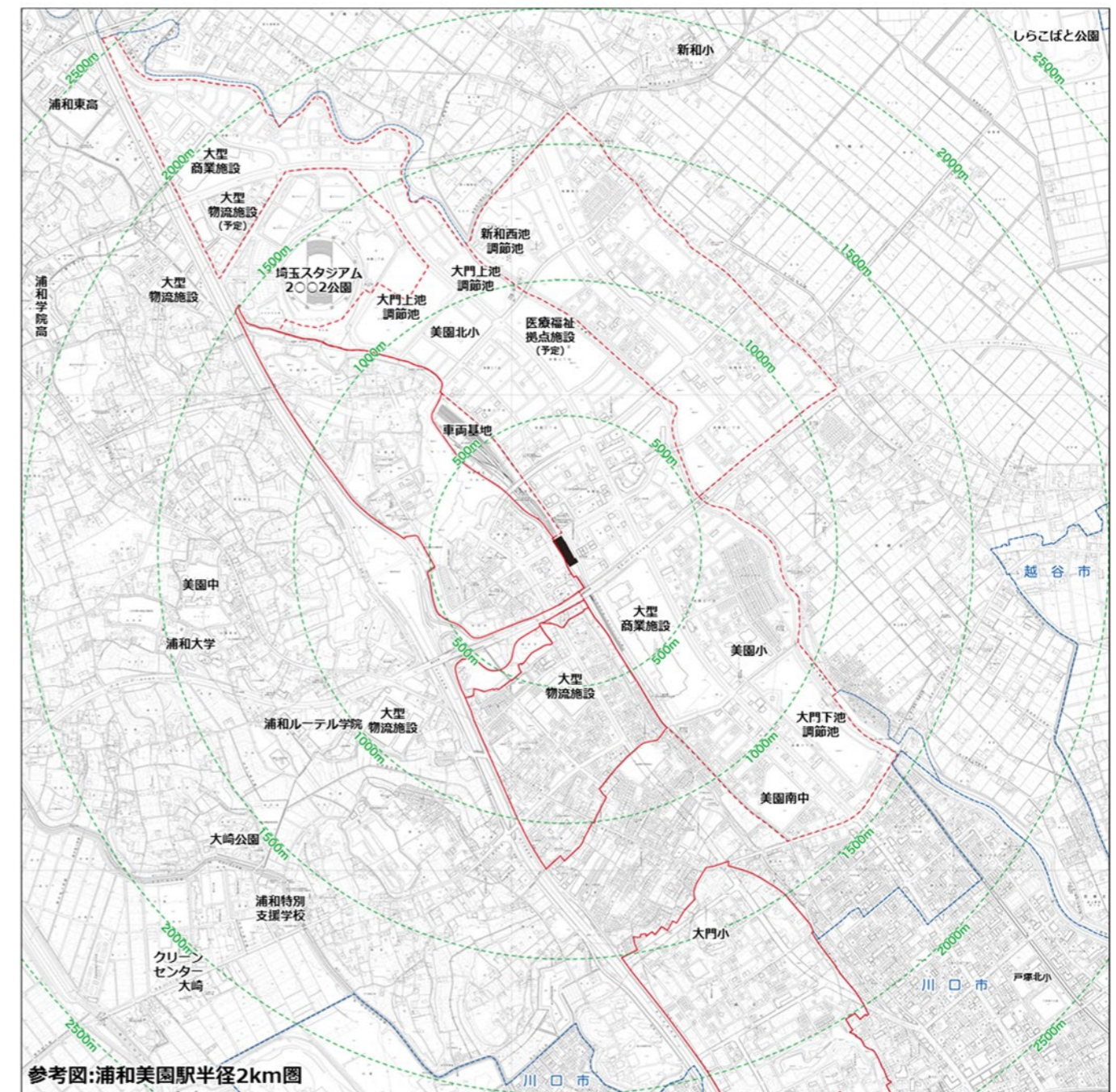


本日の意見交換

今時点のニーズ・状況だけでなく、**将来の美園地区でのライフスタイルや地区内状況**も想像しながら…

① **今ある交通環境、交通関連プロジェクトの良い点/足りない点**は？
地区内の交通環境が果たすべき役割は？

② **改善アイデアや新たな取り組み**を自由に発案



参考図:浦和美園駅半径2km圏

エリア交通ビジョン『(仮称)美園スマートモビリティデザイン』の検討

※本取組は、国土交通省のスマートシティモデル事業「重点事業化促進プロジェクト」に選定されており、今後具体検討に入る。

◆現状

- 美園地区では、**大規模な土地区画整理事業(約320ha)が進行中**。
- 開発進展に伴う**施設立地や子育て世代を中心とした居住人口増**により、地区内の**自家用車利用(買物交通や朝夕のキス&ライド等)が近年増加**しつつある。
- 浦和美園駅前では、**駐車ニーズの高さから“青空駐車場”としての土地利用が顕著**で、都市機能集積や土地の高度利用化が進んでおらず、**住民・来街者の利便性や賑わい等が不足**。
- 埼玉スタジアム2002(以下、「埼スタ」)近辺等では、**日常交通サービス不足(公共交通空白地域)等を背景とした土地利用停滞によりサッカー開催時の臨時駐車場が増え、却って自家用車利用が助長**され、サッカー観戦者交通と生活交通との輻輳による道路渋滞悪化も顕在化。
- 埼スタの他にも本地区には大型商業施設等の地区外利用者も多い集客施設が立地しており、建設予定の医療福祉拠点施設をはじめ更なる施設数増に伴う地区内の**交通弱者増加も予想**される。



まちの発展・成熟に伴う地区内滞在人口・土地利用等の変化に応じた**柔軟な交通マネジメント**を通じて、**過度な自家用車利用を抑制**し、**健康で環境にやさしく、誰もが移動しやすい交通体系を構築**すべく、2019年度より**エリア交通戦略の検討に着手**。

◆検討中の取組イメージ

①AI等を活用した誰もが利用しやすい交通手段の検討と実装

- **需要の変化に臨機応変に対応可能**で、**駅や各主要施設へアクセスするための交通手段**の検討・実装を図る。

②予約システム導入による公共交通等を利用しやすい交通システム構築

- 利用目的やニーズに合わせて、**複数の交通手段を検索・予約可能なシステム(アプリ)**を構築し、**出発地から目的地へのロスのないスムーズな移動を支援**することで、**自家用車から公共交通等への交通手段転換**を図る。

※システムの連携・統合可能性に応じて対象とする交通手段は段階的に拡張。

※システムで蓄積されたデータを基に各交通モードを最適化する、シェアリングポートの拡充や循環交通の導入などハード整備検討に活用。

③データ利活用による健康まちづくり等との連携推進

- ②の予約システムと健康データ、環境データ、周辺施設で利用可能なクーポンを連携することで、**徒歩・自転車、公共交通利用の動機づけ**を実施。
- 公共交通等の予約時に、周辺商業施設などの買い物で利用可能なポイントやクーポン券を付与し、**地域の消費活動を促進**。
- 公共交通等の利用に応じたCO2排出量抑制への貢献状況(自動車利用との対比)の提示やその抑制度合に応じたポイント等の付与により**環境意識の醸成**を実施。



取組イメージ図